

私立大学図書館協会 2012年度第1回東地区部会役員会
議事要録

日 時：2012年4月20日（金） 14:00～15:45

場 所：明治学院大学 本館10階大会議場

出席校：会長校 立教大学（石川、阿久津、市村、伊藤）

部会長校 明治学院大学（秋月、萩原、鈴木、渡辺、黒田<陪席>）

研究部担当理事校 東京農業大学（合田、山本）

分科会更新・会報担当理事校 日本女子大学（中曽根、田口）

分科会月例担当理事校 神奈川大学（堀江）

東北・北海道地区担当 酪農学園大学（頭川）

監事校 青山学院大学（添田、赤間）

次期部会長校 明治大学（菊池）

（敬称略）

配布資料：

議事次第

- ・資料1:「私立大学図書館協会 2012年度第1回常任幹事会」(以下、「常任幹事会資料」と記載)
- ・「私立大学図書館協会東地区部会 2012年度第1回役員会」(以下、「役員会資料」と記載)

議事に先立ち、部会長校明治学院大学(秋月)より、2012年4月より館長が交代して部会長を引き継いだが残りの任期中はできる限りのことをしたいとの挨拶があった。

その後、次期部会長校の明治大学がオブザーバーとして出席することが承認され、部会長校事務担当として黒田が陪席することが認められた。議事進行は、部会長校(秋月)が担当し、出席者の自己紹介が行われた。

議事：

1. 報告事項

(1) 東地区部会関係

① 2011年度東地区部会会務報告

部会長校明治学院大学（萩原）より、役員会資料（p.2-4）に基づき、加盟校数が4校増加し264校になったこと、活動報告は昨年度第二回役員会（2012年1月27日開催）での報告の通りとの報告がされた。

② 2011年度東地区部会研究部活動報告

研究部担当理事校東京農業大学（合田）より、役員会資料（p.5-8）に基づき、昨年度第二回役員会（2012年1月27日開催）以降は、（1）運営委員会、第8回開催（p.5）と（4）研修委員会、第8回開催（p.7）が追加となっているとの報告がされた。また、（6）研究分科会（p.8）の「11研究分科会」について、（1）～（9）に休会中の2分科会を加えて11分科会となり、（10）は「研修分科会」のため「研究分科会」とは別の括りとなる旨、補足の

説明があった。

(2) 第1回常任幹事会報告

会長校立教大学（阿久津）より、4月13日（金）に開催された常任幹事会について常任幹事会資料（資料1）に基づき、以下について報告された。

- ・2011年度は、被災加盟校への支援として年会費免除、総会・研究大会費の免除、ブックリターンの搬送などを行った。2012年度は、4月23日（月）に「震災」に関する座談会を行い、資料（PDF）と録画ファイルを協会HPへアップすることを予定している。
- ・「連携・協力推進会議」より、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が、今後運営経費として会費を徴収する方向であるとの案内があった。
- ・協会役員校・委員会・協会関連団体の委員について、下線部が昨年度からの変更である。
- ・2011年度決算について、昨年より役員会の委員会活動を毎年清算することに運用が変更となったため、収入の部「その他」に「過年度分委員会活動費戻入」が加わり、支出の部「6. 委員会活動費」の「決算額」が昨年度よりも減額となった。監事校の青山学院、関西大学より監査を受けた。
- ・2012年度事業計画案については、東西合同役員会以降大きな変更はない。
- ・2012年度予算（案）は、「委員会活動費」が大きく変更となっている。また、「10. 「震災」に関する座談会の実施と公開」は、昨年度の「支援額」（2,000,000円）と今年度の「座談会費用」（700,000円）とを区別した体裁に予算書を作成し直す。
- ・2013年度～2014年度の委員会委員の選出母体について、「研究助成委員会」のローテーションを修正した。「協会ホームページ委員会」は、これまでローテーションの決まりがなかったため、新たに委員会の選出構成を決定した。
- ・2012年度の館長リレーメッセージは、東西各地区の総会、研究大会の会場校に執筆していただく。

2. 協議事項

(1) 2011年度東地区部会決算報告及び監査報告について

部会長校明治学院大学（萩原）より役員会資料（p.10）に基づき決算報告がされ、監事校青山学院大学にて監査を受けた旨の報告があり、了承された。

(2) 2011年度東地区部会研究部決算報告及び監査報告について

研究部担当理事校東京農業大学（合田）より役員会資料（p.11）に基づき決算報告がされ、監事校青山学院大学にて監査を受けた旨の報告があり、了承された。

(3) 2012年度東地区部会事業計画（案）及び予算（案）について

部会長校明治学院大学（萩原）より、役員会資料（p.12-13）に基づき、説明があった。

- ・昨年同様の活動を基本とするが、人員が減っても運営できるように実情にあわせた部会運営を考えたい。一部委託化も考えている。

- ・予算（案）について、資料の電子化に関する予算を「事務運営費」として計上した。

<質疑応答>

- ・会長校立教大学（阿久津）より、予算（案）「宅配便代」について質疑があり、前部会長校青山学院大学（赤間）が、宅配便代は着払い扱いのため、引継資料の運搬代は2011年度決算額に含まれていると回答した。
- ・会長校立教大学（阿久津）より、資料のPDF化は、こういった媒体での引継を想定しているのか、また、研究部の資料電子化は予算額に含まれるのか、との質疑があった。これに対し、部会長校明治学院大学（萩原）より、媒体はDVDまたは光メディアとし、年度別とするのが分かりやすいと考えている。予算額は部会長校の引継資料の電子化代のみであり、研究部資料の電子化費用は含まれていないと回答があった。

事業計画（案）、予算（案）ともに承認された。

(4) 2012年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について

研究部担当理事校東京農業大学（合田）より、役員会資料（p.14-15）に基づき、説明があった。

- ・活動内容については、昨年度を踏襲した。
- ・予算（案）については、今年度は「分科会助成金」を12分科会分に予算額を増額した。企画広報研究分科会は、昨年までは休会だったものが活動再開となっているが継続の可否は不透明である。分科会の開催は、新年度も継続が困難な状況である。しかし、予算の段階では継続が難しいものについても、全ての分科会ができる限り実現できるように12分科会分の金額を「分科会助成金」予算額として計上した。
- ・分科会活動申し込みの時期が、年度代わりの人事異動の時期と重なっている。新年度活動の受付時期を6月頃まで延長してもよいのではないかと考えている。

<質疑応答>

監事校青山学院大学（赤間）より、現時点で既に継続が困難な分科会もあるが、それはどの時点で予算案に反映されるのかという質疑があった。これに対し、研究部担当理事校東京農業大学（合田）より、年度途中での補正予算は組まない。受付時期の延長などでの対応を検討しており、予算額の削減は考えていないとの説明があった。

事業計画（案）、予算（案）ともに承認された。

(5) 研究部2012/2013年度研修委員について

研究部担当理事校東京農業大学（合田）より、役員会資料（p.16）に基づき、2012/2013年度研修委員が決定したことが報告され、了承された。

(6) 2012年度部会総会、館長会及び研究講演会の開催（案）について

部会長校明治学院大学（鈴木）より、役員会資料（p.17-29）に基づき、2012年6月8日（金）に「2012年度東地区部会総会・館長会及び研究講演会」が会場校東海大学高輪校舎で開催される。加盟館に開催案内を送付するにあたり、以下の提案と説明があり承認された。

- ・5月1日付で送付し、出欠等の締切日を連休明けの5月11日（金）とする。
- ・送付物をスリム化するため、昨年度まで同封していた「書類の送付について（p.17）」「研究講演会式次第（p.23）」を削除する。なお、研究講演会の内容については、「東地区部会研究講演会のご案内（p.22）」で確認可能であり、式次第は当日配布する冊子に掲載される。
- ・「出欠票」「提出議題・承合事項」の提出は、今年度はFAXに加えてE-mail（PDF）でも受け付けることとする。
- ・「委任状」を部会長校に一任していただく形式に様式の体裁を改めることを提案する。これにより、欠席校が票決権の行使大学を選任する必要がなくなる。
- ・館長会については、懇談テーマを「学生の意識や行動の変化と、図書館のあり方」とし、開催時間は1時間30分とする。

また、研究部担当理事校東京農業大学（合田）より、今年度の研究講演会は国立国会図書館長大滝先生に依頼をしている。国務大臣待遇クラスの講演者と一緒に講演をすることを引き受けてくれる方がなかなかみつからない。今年度の研究講演会は講演者1名とし、講演時間は、1時間から90分に延長し終了時刻を少し早める。国会に召集された場合には代講者をたてることになるとの説明があり、承認された。

3. 懇談事項

(1) 東北・北海道地区理事校選出について（確認）

部会長校明治学院大学（鈴木）より、これまでの経緯について以下の説明があった。

- ・東北・北海道地区からの理事校選出については、以前からの懸案であり、昨年度開催の第2回役員会に於いて、部会長校明治学院大学増山前館長より、交通費を実費支給としてはどうかといった提案があった。ただし、実現にあたっては、これまでの経緯や問題点を整理しておく必要がある。
- ・過去に、①選出するブロック、②地区の役割、③ローテーション、④活動費の改正、の検討が問題点として挙げられている。④は、現状では東京から300km以上の役員校には「役員校活動費」として10万円支給しているが、実費での支給はしていない。

これに対し、以下のような意見が挙げられ、今期任期中に部会長校明治学院大学より、改めて具体的な提案を示すことが確認された。

- ・東北・北海道地区担当理事校 酪農学園大学（頭川）：過去の検討事項（2008年北星学園からの意向など）に対し、全く進展のないことへの危惧と、この案件は北海道・東北だけの問題ではないと考えている。北海道地区私立大学図書館協議会においても、時間の経過により幹事館メンバーの異動があり、当時の検討事項が正確に引き継がれない、認識にず

れが生じるなどを懸念し、次々担当理事校に「藤女子大学」を推薦する際、4項目を上程させていただいた。また補助については、理事校として出席する必要最低限の役員会と東西合同役員会の費用について、1回毎の上限を設ける、旅費計算を申請した上で実費精算するなど、いろいろな方法が考えられる。最低限、検討を継続して前進しているといった姿勢は示していただきたい。

- ・部会長校明治学院大学（秋月）：東は東京が中心の活動が多く、東京からの距離によって金銭的負担額に差が生じる。東西で事情が異なるのではないか。
- ・会長校立教大学（石川）：昨年度第2回役員会に於いて、「東京から100km以上の役員校の役員会出席のための旅費を実費支給とする」という方針を決め、議長（部会長校）より早急に実施したいという姿勢が示された。その件についての報告がなされていないのはなぜか。
- ・会長校立教大学（阿久津）：現状では、何に対して承認をするのか不明確である。「実費」についても金額の上限、回数制限など明確な支給基準を精査する必要がある。改めて、問題点を整理し直し、具体的な内容を提示していただきたい。

(2) 協会関係文書の電子化について

2012年度研究部活動計画（案）及び予算（案）で説明のとおり。

以上